



たか やま まさ ひと
高山正人議員

北海道追分高等学校の存続について

地域を支える軽種馬産業という特色を活かして技術者を育てる専門学科設置を求めて
子どもたちの未来を切り拓く選択肢を増やす取り組みを追分高等学校の魅力化について行政の姿勢を問う

【質問】 北海道追分高等学校の魅力化に関して、具体的にどのような支援を行っているか伺います。

【答弁】 従前からの支援は、各種検定料の補助、広報活動、学校説明会の充実、学校諸費及び通学費の補助に加え、町として近隣中学校への訪問やALTの派遣、選択授業に係る学社融合事業、希望者への給食の実施。今年度の取り組みは、高校と地域が連携し人材育成と地域の活性化を目的に実施している北海道MA+CHプロジェクトと町が連携し企業と連携した授業の協働実践や総合探究授業への参画を実施。また、追分高等学校の教育活動を積極的に発信、生徒募集を強化するためのパンフレットを刷新、イオン苫小牧店での学校説明会実施等、追分高等学校の魅力化に関する支援を行っている。

【質問】 北海道追分高等学校の存続に向けた今後の取り組みについて、どのような支援をしていくか伺います。

【答弁】 これまでの支援の継

続と、今年度力を入れ実施している追分高等学校の教育活動の積極的な発信と生徒募集の取り組みを充実させ入学者数の確保に努めるとともに、総合探究授業の充実を図る等支援に努め追分高等学校の魅力化を図っていく。

【質問】 支援に関して、現在の取り組みであっても普通科の募集に限界があると思いますが、行政の考えを伺います。

【答弁】 現在の高校を取り巻く環境は、少子化による生徒数の減少、都市指向も進んでいるので、現在の支援策だけで直ちに定員を安定的に満たすことは容易ではないと認識しています。教育内容、キャリア面の魅力を一層高めていく必要があり、それが志願者の増加、安定につながると考えている。しかし、普通科の学級編成や募集の在り方については、設置者の北海道教育委員会の所管事項なので、町の支援を着実に進めた上で、その成果を北海道教育委員会とも二ーズを共有し

存続へ向け模索していく。
【質問】 子どもたちが選びたくなる特色が必要だと思いますが考えを伺います。

【答弁】 高校の進学先の選択肢も多様化する中、追分高等学校が生徒から選ばれる特色が必要だと考えています。単に通いやすさだけではなく、ここにしかない学びと思える特色が必要不可欠だと認識している。より一層、学校、地域、企業、関係機関とつながった学びを核とし、地域とつながる実践的な学び、少人数ならではの安心と挑戦の場となる学校づくりに向けた支援を進め、追分高等学校の魅力化に努めたいと考えている。

地域の特色(軽種馬産業を生かした学科)の設置を求めて

【質問】 安平町は軽種馬産業が非常に盛んな地域であるというところで、馬産地に関して担当するような科を設け一大産業の中で次の担い手、技術系とはいえ普通学校にはない特色を出す機会

が得られるのではないかな。
全国的な規模での募集も行い人材(技術者)を育てていく考えは。

【答弁】 学科の新設は専門教員の確保、学科に関わる実習施設の整備、安定的に志願者を確保できるか等ハードルが高いといわれているが、地域産業を生かした学科の新設を考えるとそのハードルを僅かでも下げる提案である。安平町の中には追分高等学校存続協議会、追分高校を支える会など関わりがある団体があり、今回の提案を含め協議会からも意見をいただきながら要望を伝えていく形で議論をしていきたい。また、プロジェクトの立ち上げについては、現時点では考えていないが、提案はしっかり受け止め、学校運営協議会や存続支援から魅力化に移行しています。そこで提案について説明し、委員会としてプロジェク立ち上げまで行くか調査研究したい。専門家についてもどのような魅力化が図れるか選択肢の一つとして調査したい。



とりこみ 鳥越真由美議員

『学びの場』と『学校施設』を考える

次期への考え方を町長に問う

**時代が変化している中で
これからの学校施設とは**

質問 学校に通えない子どもが増えている現状を踏まえ、今後、改修予定の学校についての考え方は。

答弁 不登校は学校環境、集団の在り方、教育内容や指導方法を含めた社会全体の課題として受け止めるとともに、通えない子どもたちに学びを保障する視点が大事との認識。その上で安心して過ごせる場所としての機能の強化など不登校対策の視点を位置付けた学びと成長の機会を保障できる学校施設が望ましい。

質問 教室、学校の規模はその時にいる子どもの数が基本となり、周囲が変わらない小さな学校だからこそ起きる画一的で逃げ場のない学校の形も不登校の一因ではないか。

答弁 学校は一日の大半をその場で過ごし、義務教育の間はコミュニティの制約も非常に受ける。地方の小さな学校は今後、考えていかなければならない。

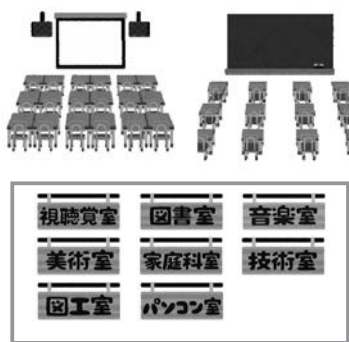
質問 学校だからこそ設置される特別教室は情操教育に重要ではないか。

答弁 早来学園は特別教室について重要な意味があるというところで設計されている。追分中学校は1階に特別教室が揃っていることから一体的に使えるように改修をかけている。時代の変化を考えると学校施設は情操教育も含めて特別教室の在り方は重要視している。

質問 文部科学省が日本型学校教育の要として提唱している個別最適な学びと多様な学校に対する考え方、更新の時期が決まっている追分小学校・中学校について、学校は福祉的な居場所であることも踏まえた上で、子どもへの直接的な予算が少ないことや教育という観点だけではない構想と予算を考えた上で、町民への丁寧な説明が必要ではないか。

答弁 フリースクール設置は現在、考えていない。学校内への設置について検討はしていないが選択肢には入ると思う。学校も公共施設の一つ。あらゆる選択肢

の中から住民や保護者、子どもたちと議論を重ね、予算的な制約も含めて施設の更新に向けて検討していく。



任期満了となる 町長に次期を問う

質問 4年間に對する評価を問う。

答弁 2期目の公約は6つの柱①子どもが飛躍する環境の整備83%②地域コミュニティ整備100%③商業

の活性化、雇用の創出、農業の振興を図る97%④高齢化に負けない地域づくり94%⑤暮らし続けられる環境整備89%⑥町民の役に立つ場所づくり73%。

質問 次期に對する考え方を問う。

答弁 市町村長は執務の業務以外、休日のイベントや出張など健康であることが重要な役割と実感している。現在、60歳であり、健康も良好であることが前提と考える。公約の達成はひと通り高い率だったが、未達成の事業も多くあり、長期間かかる対応策も求められている。第3次安平町総合計画策定を今年度、来年度で着手していることも含め、全体的に考えて、来年4月実施予定の次期町長選挙に再度立候補する覚悟を持っている。





ないとう けいこ
内藤圭子議員

野生動物による日常生活および 農業被害への対応について 水道未整備地域の請願の今後について

農業被害の対応について

質問 当町の被害の現状は。

答弁 当町の有害鳥獣として捕獲許可があるのはひぐま、エゾシカ、ユキウサギ、キツネ、カラス、キジバト

で特定外来生物としてアライグマを駆除している。令和七年十一月末現在の捕獲数はひぐま2頭、エゾシカ804頭、カラス1羽、キジバト0、キツネ16頭、ユキウサギ18羽、アライグマ1323頭。令和6年の農業被害調査では被害総額2054万2000円。

質問 アライグマの捕獲が追分と早来の捕獲数の違いが大きい理由は。

答弁 全体の75%が早来地区。厩舎や牛舎が多いため。

質問 当町の駆除の現状は。

答弁 エゾシカは安平町有害鳥獣対策協議会メンバーのハンターによる捕獲。令和4年からくりり罠狩猟免許取得助成金、くりり罠購入助成。アライグマは国の多面的機能支払い交付金事業を活用して平成28年8月から町内農業者で構成する

10協議会で捕獲をしている。捕獲については農業者からの要請に基づき箱罠を貸し出し捕獲は農業者、回収処分はシルバー人材センターに委託している。

質問 市街地で捕獲している頭数は。

答弁 市街地で捕獲している頭数は令和7年度43頭。

質問 アライグマに関しては外来生物と有害鳥獣という2つの駆除のくりりがあると思いますが対策はあるか。

答弁 アライグマの対策は駆除が基本。必要に応じた罠の貸し出しをする。市街地の対策として罠の貸し出しを公報で周知する。

質問 周辺自治体と連携する考えは。

答弁 連携した活動は難しい。情報共有はしていきたい。

質問 補助金をしっかりとつけて箱罠をかける人を増やす考えは。

答弁 有害鳥獣としてアライグマを捕獲するには箱罠の資格が必要。ハンターさんと協議していない段階で

す。

質問 安平町で箱罠を扱える人は何名。

答弁 18名。

質問 罠の数は足りているか。

答弁 約300基保有、約270基貸し出し。新たに30基分の予算を要求している。

水道未整備地域の 請願の今後について

質問 水道未整備地域の対象はどのように把握しているか。

答弁 当課では情報を有しないため把握は困難。水道課と情報共有、連携して対象者の把握をしたい。

質問 この件についてどのように検討してきたか。

答弁 水道未整備地域において地下水を飲用水として利用している方の負担軽減を図り、安心して地下水を飲用することができるとする支援策として水質検査にかかる経費に対して助成する事業の検討を進めている。詳細は決定していない。令和8年6月議会の補正予算で計上

したい。

質問 どれくらいの予算を考えているか。

答弁 この場でいくらかということはできない。他町村も参考に制度設計していきたい。

一般質問を終えて

野生動物の被害は深刻です。ハンターさんは頑張って駆除して下さっています。ほかにできることはないのか？と考え今回の質問になりました。他の町村の取り組みを調べましたが対策がさまざまで驚きました。それだけ皆さん苦労しているのだと感じました。今後も目が離せません。水道未整備地域の対応については6月議会の補正で事業について計上されると具体的に聞くことができました。高齢者の多い地域でもあるので、「これなら水質検査できる」という制度設計をぜひお願いしたいと思っています。



く どうしゅういち
工藤秀一議員

- ・社会的処方による孤立の解消
- ・クマ出没対策について
- ・避難指示対象者の多くが避難しなかったのは何故
- ・鹿公園傍のメガソーラ計画について

社会的孤立の解消対策

- 質問** 家族や地域との接触がない孤立状態の人の増加問題。団体で活動人数は。
- 答弁** ボランティア29団体、延べ608名。体育16団体、文化団体の把握困難。
- 質問** 団体所属は人口の1割から2割程度。人とのつながりと健康リスクは大きく関わる。団体の活動を紹介する冊子を作っては。
- 答弁** 社協だよりや町のHP等から幅広く紹介。社会的孤立の予防は有効と認識。今後他部局と調査検討する。
- 質問** 社会的処方の取り組みについて考えを伺う。
- 答弁** 薬による治療だけでなく社会的なつながりや居場所を橋渡しする取り組み。町では近い取り組みを行っている。医療機関などと連携しながら研究を進める。
- 質問** 高齢者は減っている。その他対策は。
- 答弁** 地域支え合い活動推進交付金を活用し孤立解消に向け取り組む考え。

鳥獣対策について

- 質問** クマ被害、全国死者数過去最多。町内は人の被害はないが捕獲の状況は。
- 答弁** 7年度出没14件捕獲2頭、出動延14名36回。
- 質問** 報道のような逼迫感はないか伺う。
- 答弁** 山林、出没地点、農地、市街地があり、この農地に作物があつて緩衝帯の役割を果たしているようだ。
- 質問** ハンター人数の不足はないか、報酬はどうか。
- 答弁** 人数不足の意見はない。報酬も低い水準ではない認識。
- 質問** クマが市街地に留まる事態になった場合は。
- 答弁** まず住民の安全最優先に注意喚起。郊外に追い込み駆除。
- 質問** 自衛隊や警察の協力についての考えは。
- 答弁** 新制度の関係は協議している。
- 質問** 国のクマ被害対策パッケージは緊急に必要か。
- 答弁** 町内のクマは生息域ではなく移動域の判断なので緊急要望事項はない。

防災対策について

- 質問** クマ以外の鳥獣対策にも使えるが、鹿柵、電柵の設置に使う考えは。
- 答弁** 現段階で要望なし。
- 質問** カムチャツカ半島付近の地震による津波警報で避難者が来たと聞く。
- 答弁** 避難所は開設していないが沼ノ端居住の家族3名が町民センターに避難。
- 質問** 町外から避難者が来ることを想定していたか。
- 答弁** また千島沖など巨大地震想定の場合、町内外の避難者や受入れを今後想定するか。
- 質問** 道の駅あびらが想定通りに大変混雑した。また、巨大地震の場合、基本的に指定避難所の利用はお断りするものと想定。
- 質問** 9月の土砂災害警報で避難指示。全体52世帯91名が対象。実際の避難者は17名。多くの方が避難しなかったがその理由は。
- 答弁** 推測では①緊急性が伝わらず、土砂災害の危険が過小評価②深夜帯③高齢等身体的理由

メガソーラ計画について

- 質問** 土砂崩れしない強靱化の考えは。
- 答弁** 必要に応じて検討していきたい。
- 質問** 配水池の水道管が埋設されている周辺の鹿公園は日本最古の保健保安林。この自然は大切である。町所有の代替地があれば交換提案し町有地にしては。
- 答弁** 面積含め同程度の町有地がない。交換の交渉は難しい。また反対署名が1120筆の提出があり、事業者と面談を予定。町の考えを事業者に伝える。
- 質問** 水道管が埋設された土地はどういう土地か。
- 答弁** 町は土地所有者との間で賃貸借契約を結び水道管維持保全権限を確保。
- 質問** 町の太陽光発電の設置に関する条例第5条の禁止区域に該当するか伺う。
- 答弁** 7つの区域を禁止区域として規定しているが条例で定める禁止区域には該当しない。



みうら えみこ
三浦恵美子議員

男女平等について/ジェンダー平等について

性別に関係なく生き生きと働きやすい職場(役場)実現！

少数の町民切り捨てをしないあたたかい町づくりへ・・・。
再びパートナーシップ制度導入を求め行政の姿勢を問う。

男女平等について

質問 第3次安平町男女共同参画基本計画策定に際し

実施したパブリックコメントへの意見の内容をどう計画へ反映したか伺います。

答弁 パブリックコメントは1名5件の意見があり、5件中4件を計画に反映。残り1件は今後の検討。反映した例として役場職員に占める女性職員の割合の目標値を現状値より2・2%増の18・9%と具体的数値を示した。

質問 令和6年3月定例議会的一般質問で示された男女共同参画における3つの課題解決へ向けた取り組みの進捗を伺います。

答弁 3つの課題解決の為に新たに計画に追加した内容は①パートナーシップ制度に関する調査研究②女性が働きやすい職場をPRした採用活動の実施③安平町役場の特定事業主行動計画の実施状況の公表等。各種取り組みを進めている。

質問 役場職員の働き方について、時差出勤(早出、

遅出)の導入により働きやすい環境になったか検証結果を伺います。

答弁 労働時間を変えず前後1時間の時差で出勤出来る内容。令和6年6月より試験的に導入。導入から半年後アンケート実施。ライフスタイルに合わせた仕事が出来ると肯定的な意見が多数ある中、担当課によつては職員が手薄になる、シフトが固定化になる等の課題があり、本格導入は町民の役場利用実態も踏まえた開庁時間のあり方も具体的に検討が必要。

質問 役場職員の育児休業の取得について現状と課題を伺います。

答弁 平成18年から女性の取得率は100%。男性は令和3年に初めて短期間1名取得。その後令和6年度1名、令和7年度12月時点で2名取得と増加傾向。その反面取得期間に育児給付金が支給されるが経済的理由から職場復帰する状況が男女共課題。又根付かない男性の育児休業取得。担当業務の進捗が気になり長期

取得に躊躇する等の声がある。

質問 安平町次世代育成支援対策・女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画が令和7年度で終了するが実施状況をどう検証しているか伺います。

答弁 令和7年度までに採用職員に占める女性職員の割合40%以上、管理職に占める女性の割合9・5%以上の目標を達成。計画実施状況は町HPで公表中。

質問 生理用品の学校や公共施設のトイレへの備え付けについて、令和7年1月から両役場庁舎の女子トイレへ生理用品が設置されたが、設置後の検証内容と今後の方向性について伺います。

答弁 過去の議会質疑も踏まえ本年1月から両庁舎5ヶ所に生理用品を設置。設置目的は女性の急な生理への対応。しかし、短期間に想定を越えた過剰持ち帰りを疑う利用も確認されており、今後の対応について慎重な検討が必要という認識。

ジェンダー平等について

質問 ジェンダー平等(ジェンダー差別根絶)の

取り組みとして町民向け講座開催についての検討結果と今後の方向性について伺います。

答弁 性的少数者に対するパートナーシップ制度の取り扱いについて当町で該当する相談がなく、町民向け講座の開催は未実施。今後はSNS活用等ジェンダー差別根絶の取り組みを引き続き進める。

質問 パートナーシップ制度、ファミリーシップ制度導入について現在の進捗を伺います。

答弁 第3次安平町男女共同参画基本計画の中でパートナーシップ制度に関する調査研究と言う形で追加。先に制度導入している苦小牧市が実施したLGBT理解促進事業として、令和6年9月に開催した「はるな愛さん講演会」に安平町から職員2名を参加させる等、先進自治体の事例から学ぶ形で調査研究をしている。

☆議会・委員会活動 (10月から12月まで)

議会改革調査特別委員会	10月14日
議会広報特別委員会	10月17日
全員協議会及び 議会改革調査特別委員会	10月27日
決算審査特別委員会	10月30日 ～ 31日
胆振管内町議会議員研修会 (洞爺湖町)	11月6日
議会懇談会	11月9日 ～ 13日
第7回臨時議会	11月28日
議会運営委員会 及び全員協議会	12月10日
第9回定例議会	12月17日 ～ 18日
議会運営委員会	12月18日

過去の議会録画映像と会議録の視聴ができます

会議録を読む



録画映像を見る



※会議録は令和4年9月分以降から開始しました

【議会事務局からのお知らせ】

議長宛の文書や案内状などは、議長公務日程調整のため、議会事務局に送付下さいますようお願いいたします。

議会中継の視聴方法について

議会開会中は、次の2通りの方法でご自宅でライブ中継を視聴できます。

(1) ご自宅のテレビから



地上デジタル放送
11チャンネル
あびらチャンネル
で視聴できます。

あびらチャンネルは
安平町内限定のエリア放送です

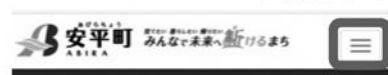
(2) インターネットから（安平町ホームページから）



- ① 安平町のホームページ最上段にある「行政組織・議会」から
- ② 次の画面に進み、画面下方の「議会・選挙」の欄の「議会中継システム」を選んでください



※スマートフォンから視聴する場合（表示が異なります）



画面の最上段にある
この部分を押すと上記と同じ
「行政組織・議会」が出ます

あとがき

安平町はもっと発展してもいい町であると考えます。発展できる要素、チャンスがたくさんあると思います。

私は、安平町の発展を願い、地域振興、経済発展についてを主軸に議会を取り上げてきました。将来の安平町の産業を考えた時に、軽種馬産業以外にも新たに北海道に進出した半導体関連産業を活かしたまちづくりを進めていく必要があると考えます。

ここ数年のうちに関連産業の誘致等の政策打ち出していくことが大切だと考えます。

そのためには、工業団地や住宅団地等の構想を考えていく必要があるのではないのでしょうか。そのことが将来の町にとって重要な意味を持つと私は考えます。

議会広報特別委員会

委員 高山 正人